

東北大学病院長推薦調書

推薦するグループ名 生理検査センター
代表者氏名 三木 俊

生理検査センターは2012年8月に検査部門から独立して発足した。過去2年半で活動が飛躍的に増加し、特に2014年度においては臨床・研究・教育のすべてにおいて著しい成果を上げた。

第1に臨床面では、検査件数の増加、検査項目の拡大が大きく、収益面でも著しい成果を挙げることができた。これは生理検査センターアドバイザー会議を開催して、各診療科からの要望を聞き取り、可能な検査項目を順次追加する対応を行ったこと、人員の効率的な配置替えと、人材育成を並列しておこなうことにより、既存検査枠を拡大できたこと、緊急検査等にも柔軟に対応してきたことなどによる。結果的に、2012年度が2億3790万円だった収益概算が、2013年度は2億5807万円、2014年度は2億7826万円（年度末予想）と着々と増加している。

第2に研究面においては、論文発表・雑誌掲載では2012年度は2件、2013年度は8件、2014年度は8件と増加しており、学会発表や講演も、2012年度4件、2013年度16件、2014年度57件と飛躍的に増加している。治験業務や臨床研究、共同研究などにも柔軟に対応し、東北大学の研究推進に貢献している。

第3に教育面では、スタッフの専門資格取得が増加している。2012年度は合計4資格であったものが、2013年度は12資格、2014年度は14資格と格段と増えており、臨床業務を行いながら、その質的向上に寄与している。また医学部保健学科の実習や卒業研究、医学科の臨床医学修練、歯学科実習、医工学研究科修士課程実習などの学生教育にも貢献している。とくに医学部保健学科の実習アンケートでは、別紙にあるように全ての学生満足度はきわめて高い。さらに、東北メディカル・メガバンク機構の実技指導や文部科学省地域イノベーション事業の実技指導、アカデミックサイエンスユニット（ASU）クリニカル・イマージョンの協力などの学生以外の教育にも協力している。

このような活発な活動は、全国から注目されており、生理検査センターの運営そのものに関する講演依頼も多数届いている。さらに国内の他の施設から短期的な見学者はもとより、半年程度の長期の研修生も増えている。

（推薦人）

てんかん科 中里信和